

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

企業は社会人教育の道場 (松下幸之助)

1. 企業がその社会的責任を果たしていく上で、どうしても欠かすことのできない大切なものがあります。それは、人材の育成ということです。よき人材の育成なしには、企業はみずからの社会的責任を全うしていくことはできないでしょう。つまり、企業は単に物をつくるだけでなく、あわせてよき社会人をつくらなくてはならない、それが企業の社会的責任であり、また現に多くの企業が行なっているところでもあるわけです。
2. 企業が人を育てるといえることは、単に企業自身にとって大切なだけでなく、大きくは国民教育、社会教育の一環にもなります。ふつう教育といえは、学校教育が考えられます。けれども、学校教育というものは、いわば人間としての基礎教育だと考えていいでしょう。そうした基礎教育をもとに、実社会での指導と体験とが加わって、人間としてのみがきがかけられ、仕上げがなされるのだと思います。
3. 今日の企業は、学校教育の基礎の上にみがきをかける人間教育、国民教育、いいかえれば社会人教育の道場として、非常に大きな役割を持っているといえます。企業にとって、その第一の社会的責任が本業にあるとすれば、それにつぐ第二の社会的責任は、人を育てることだといってもいいと思うのです。

(参考:「PHP Business Review」2007年9・10月号)

経営者のための理念・哲学

幹部には自らの経験を超えた責任がある (P. F. ドラッカー)

1. 今日、マネジメントの最大の社会的責任は、一般人、すなわち企業の外にあって企業について何も知らない教育ある人たちが、企業は何を行い、何を行うことができ、何を行うべきであるかを理解できるようにすることである。そして、リーダー的な階層に属する知識労働者には、自らの直面する課題を超えた責任がある。
2. 企業家精神が体系として提示され、経済的な成果のために資源を体系的に利用できたとき、教育ある素人たちも、産業社会における経済的機関としての企業が行おうとしていることを理解し、行っていることに敬意を払うようになる。そのとき初めて、社会にとって企業活動が当然の活動とされ、企業の経営幹部の貢献が世に理解されるようになる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2007年7月7日号)

人事・労務について

信頼できる部下かどうかの見極め

1. 理想の部下、信頼できる取引先とは、ひとことと言って、どんな局面でも逃げ出さない相手であろう。日頃、従順で愛想がよくても、風向きが変わり、厳しい状況に追い込まれるや、途端に浮き足立ち、態度が変わるようではとても安心して一緒に仕事などできない。また、まだ期待値が高くない時に、10の仕事を頼んで11の結果を出すと、「こいつはいい」と思い込んでしまいがち。それを評価として定着させていいものなのか、単なる先入観なのかを識別し、先入観ならきちんと修正しておかないと、手痛いしっぺ返しを食うことになる。
2. そんな苦い経験から、人物を見極めるひとつの物差しを持つことも大事だ。例えば、見所があると思う部下には、必ず「火事場体験」をさせる。仕事で忙殺されている時に、わざと余計な仕事を命じ、その対応を見る。許容能力以上の仕事を与えると、人の地金が見えやすくなる。あくまで食らいついていこうとするか、適当に流そうとするかで、信頼して仕事を任せる相手かどうかを判断する。

(参考:「WEDGE」2007年10月号)

古典に学ぶ

信得れば財足る

「信を人に取れば則ち財足らざることなし」

(訳) 信を得ておけば財貨に困ることはない。信の源泉は、誠実、思いやり、相手の立場に立つの仁につきるといえるだろう。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP文庫)